

授業科目	*薬理学				実務家教員担当科目	-					
単位	2.	履修	必修	開講年次	2	開講時期	前期				
担当教員	東 泉										
授業概要	薬理学は、薬物と生体がどのように作用しあうのかを学ぶ学問である。総論では、薬物の作用の仕方（作用機序）、薬物と有害作用、薬物の効果に影響する要因などについて学ぶ。各論では、代表的な薬物について、その薬物とその疾患に対しなぜ効くのか、またどのような有害作用があるのかを理解し、医薬品の適正使用のための知識を身につける。										
授業形態	講義	授業方法	Google Formを使用								
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>① 薬物の作用点（受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター）を説明できる。</p> <p>② 薬理作用を規定する要因や薬物動態（吸収、分布、代謝、排せつ）を説明できる。</p> <p>③ 薬物の蓄積、耐性、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。</p> <p>④ 薬物相互作用とポリファーマシーについて概説できる。</p> <p>⑤ 薬物の投与方法の違いによる特徴を説明できる。</p> <p>⑥ 小児期、周産期、老年期、臓器障害、精神・心身の障害時における薬物投与の注意点を説明できる。</p> <p>⑦ 薬害、薬剤の職業性ばく露について概説できる。</p> <p>⑧ 薬物の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。</p> <p>⑨ 薬物管理の基本的知識と注意事項を説明できる。</p> <p>⑩ 主な治療薬（末梢神経系作用薬、中枢神経系作用薬、循環器系作用薬、血液作用薬、呼吸器系作用薬、消化器系作用薬、内分泌・代謝系作用薬、抗感染症薬、消毒薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、抗腫瘍薬、医療用麻薬麻酔薬）の薬理作用、作用機序を説明できる。</p>										
理想的レベル	標準的レベルを習得したうえで、総論の内容を充分理解し、説明できる。各論では、代表的な治療薬について看護師として必要な知識を充分身に付け、説明ができる。										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）				備考						
試験	80%										
小テスト	20%										
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NU11110J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
初回到配布する予定表で学習内容を確認し、該当箇所の予習・復習をする										4	
授業計画											

第1回	テーマ：薬理学総論 1 薬理学の概説をする。 薬物の作用機序と薬物受容体について解説する。
第2回	テーマ：薬理学総論 2 薬物の生体内運命について解説する。
第3回	テーマ：薬理学総論 3 薬効に影響を与える要因について解説する。
第4回	テーマ：薬理学総論 4 薬物の有害作用、相互作用について学習する。
第5回	テーマ：薬理学総論 5 医薬品に関する法律や医薬品の適切な取り扱いについて解説する。
第6回	テーマ：末梢神経作用薬 自律神経系（交感神経、副交感神経）に作用する薬物について解説する。
第7回	テーマ：中枢神経作用薬 1 全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬について解説する。
第8回	テーマ：中枢神経作用薬 2 抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、抗うつ薬、抗精神病薬、麻薬性鎮痛薬について解説する。
第9回	テーマ：循環器作用薬 高血圧症、不整脈、心不全、狭心症の治療薬について解説する。
第10回	テーマ：血液系作用薬 抗血液凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬、止血薬、貧血治療薬などについて解説する。
第11回	テーマ：抗アレルギー薬、抗炎症薬 抗アレルギー薬、抗炎症薬について解説する。
第12回	テーマ：呼吸器系・消化器系作用薬 気管支喘息、消化性潰瘍の治療薬について解説する。
第13回	テーマ：内分泌系作用薬 糖尿病治療薬について解説する。
第14回	テーマ：抗感染症薬 抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬について解説する。
第15回	テーマ：抗がん薬、免疫治療薬、総括 抗悪性腫瘍薬、免疫抑制薬について解説する。
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 3 薬理学 第15版（吉岡 充弘 他 著、医学書院）
参考図書・教材 ／データベース・雑誌等の紹介	参考図書 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 第2版（医学書院） 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学（メディカ出版） イラストで理解するかみくだき薬理学 改訂3版（南山堂）

課題に対するフィードバックの方法	小テストの正答は公開する。詳細は講義中に説明する。
学生へのメッセージ・コメント	生化学、生理学、とくに病態生理学について復習していると、講義が理解しやすい。 医薬品に関する様々な情報に関心を持つよう心掛ける。